

ホンダ、自動運転「レベル3」発売へ 世界初の認可

2020/11/11 16:00 (2020/11/12 8:39更新) | 日本経済新聞 電子版



レベル3に対応した高級車「レジェンド」を発売する（写真は既存車種）

ホンダは11日、高度な自動運転の機能を搭載した「レベル3」の乗用車を2020年度中に国内で発売すると発表した。高速道路での走行時に視線を前方から離しても運転が可能な機能を、高級車「レジェンド」に搭載する。同日、国土交通省からの認可を得た。レベル3の車の実用化を国が承認したのは世界で初めて。自動運転車の普及に弾みがつきそうだ。

【関連記事】

[中国新車、自動運転5割に 25年目標 百度や滴滴開発加速](#)

自動運転は機能によってレベル1からレベル5まで5段階に分かれている。多くの車に搭載されている自動ブレーキや車線をはみ出さない機能はレベル1や2とされている。レベル3は一定の条件のもとであればハンドルやブレーキなどの運転操作をシステムに任せることができるようになる。

ホンダが国交省から認可を受けた乗用車は、同社が新たに開発した自動運行装置「トラフィックジャムパイロット」を搭載している。高速道路が渋滞しているか、渋滞に近い状態で、車の速度や天候など一定の条件下なら運転操作を自動化。前方の車を追走する。ドライバーは緊急時に運転を引き継げる態勢を求められるが、前方から目を離してスマートフォンやテレビを視聴できるようになる。価格や発売時期などの詳細は明らかにしていない。

他メーカーも自動運転技術の開発に注力している。トヨタ自動車は今冬に発売予定の高級車ブランド「レクサス」の最上級セダン「LS」の新型モデルに、ハンドルから手を離して運転できる「ハンズオフ機能」を搭載する。自動運転のレベル2に相当する。レベル3相当についても「数年内に投入できる」（トヨタ幹部）という。

日産自動車は今後発売する新型車で原則、レベル2相当の先進運転支援技術「プロパイロット」を標準装備する方針だ。高価格車は高速道路での手放し運転、低中価格車は前方車の追従が可能になる。

独アウディもレベル3の技術を実現したとされるが、欧米などでは対応する制度が未整備で実用化には至っていない。レベル3を巡る制度面では日本が先行しており、政府は20年をめどに高速道路でのレベル3の自動運転を実現するとの目標を掲げている。

[この記事の英文をNikkei Asiaで読む](#)

